

まひる空



特集 「都市」を詠む
 富田睦子歌集批評
 秋元夏子歌集批評

2021-2

紹介 『歌人中城ふみ子 その生涯と作品』

加藤孝男 田村ふみ乃 共著

短歌研究新人賞の前身、第一回五十首応募作品（昭和二十九／一九五四年）に「乳房喪失」で鮮烈な歌壇デビューをした中城ふみ子は、受賞作が発表された四月からほどなく八月三日に癌により三十一歳で逝去。生涯唯一の歌集『乳房喪失』と逝去後すぐにまとめられた『花の原型』、関係者により刊行された『乳房よ 永遠なれ』などを原作として、田中絹代監督により「乳房よ 永遠なれ」が映画化されるなど、従来の短歌の枠を越える話題を集めた女流歌人は、二〇二一年に生誕百年となる。その記念出版として企画されたのが本書で、構成は次の如くである。

第1章 映画「乳房よ 永遠なれ」のモデル／第2章 中城ふみ子と川端康成／第3章 「短歌研究」五十首応募作品の衝撃／第4章 「乳房喪失」の構成／第5章 シュルレアリスムと戦後短歌／第6章 中城ふみ子と与謝野晶子／第7章 大森卓と木野村英之介／第8章 中城ふみ子と現代短歌／第9章 中城ふみ子の作品解説／あとがき／中城ふみ子 略年譜／中城ふみ子 主要参考文献

前半の歌人の生涯と短歌史的な位置づけは加藤、後半の作品解説と略年譜は田村が担当。また「中城ふみ子は、戦後という女性短歌の冬の時代に、絢爛たる火花を打ち上げた」と言い「その短歌には、冷徹なりアリズムと象徴的な手法とが入り混じり、独自の世界を展開している」と、加藤孝男は「あとがき」で述べている。

劇的な生涯と作品で知られる中城ふみ子をあらためて読みなおすための好著である。（クロスカルチャー出版 一八〇〇円＋税）